

目 次

巻頭言	(i)
序	(iii)
地震動予測地図の工学利用に関する提言	1
1. 総説（亀田弘行）	
1.1 地震動予測地図工学利用検討委員会設立の経緯	7
1.2 委員会の方針	7
1.3 地震動予測地図の工学利用に関する討議の要点	8
1.4 委員会の活動経過	9
1.5 政策委員会成果を社会に活かす部会への報告	12
1.6 委員会提言の骨子	12
1.7 むすび	13
2. 地震動予測地図作成の意義	
2.1 地震動予測地図作成の概要（藤原広行）	15
2.2 諸外国の地震ハザード評価（翠川三郎・井合進）	35
2.3 地震動予測地図に期待されるもの（当麻純一）	42
3. 地震ハザード評価の現状と課題（蛭沢勝三・藤原広行・亀田弘行）	
3.1 地震ハザード技術の進展	45
3.2 確率モデルに基づく地震ハザード評価	47
3.3 専門家の意見集約を組み込んだロジックツリーによる 地震ハザード評価手法	60
3.4 地震ハザード評価手法の高度化と実務への適用に向けて	64

4. 地震動予測地図の工学的ニーズと利用例	
4.1 地震動予測地図に関する工学的ニーズ（石川裕・能島暢呂）	67
4.2 学校施設の耐震化推進への利用（東貞成・久保哲夫）	72
4.3 建物の耐震設計・評価への利用（高田毅士）	79
4.4 土木構造物の耐震性能照査への利用（当麻純一）	89
4.5 ライフライン等への地震対策への利用（当麻純一）	102
4.6 地域防災計画への利用（福和伸夫）	108
4.7 地震リスクマネジメントへの利用（石川裕）	120
4.8 原子力プラント及び構成機器を対象とした 確率論的安全評価（PSA）への利用（蛭沢勝三）	126
4.9 地震動予測地図作成事業とその成果の利用（当麻純一）	138
5. 地震動予測地図の工学利用の今後（能島暢呂・石川裕）	
5.1 地震動予測地図に関する当面の課題	141
5.2 確率論的評価とシナリオ型評価の融合に向けて	144
5.3 確率論的地震ハザード評価とシナリオ型地震動評価を統合した 「地震ハザードステーション（仮称）」構想	155
おわりに	157
付録	
A：地震動予測地図工学利用検討委員会名簿	159
B：委員会開催及び関連活動記録	161
C：話題提供に関する議論のまとめ（新井洋）	165
D：「地震動予測地図工学利用ワークショップ」討議録（事務局）	177
E：地震動予測地図ワークショップ（文部科学省・防災科研主催）資料	263